ＰＥ－８型
ペレットストーブ
気密設置
工事マニュアル
（スウェーデンハウス）

■改定履歴

版	改定年月日	改 定 内 容
初版	2020.04.01	
2	2020.11.19	1次工事　外壁防風シートまで　石膏ボードまで追加。雨仕舞例追加。角の隙間もコーキング材を塗布追加。
3	2021.03.31	1次工事部分　内容追加。2次工事⑪⑫と⑬⑭手順入れ替え。現場写真に差し替え。補足内容追加等

株式会社トヨトミ

TOYO fire

作成：2021年3月

＊この設置基準はペレットストーブPE-8の設置に関する基本的な情報を記載しています。
この情報をよく理解した上、必ず製品に同梱している工事説明書をお読みになり正しい設置を行ってください。

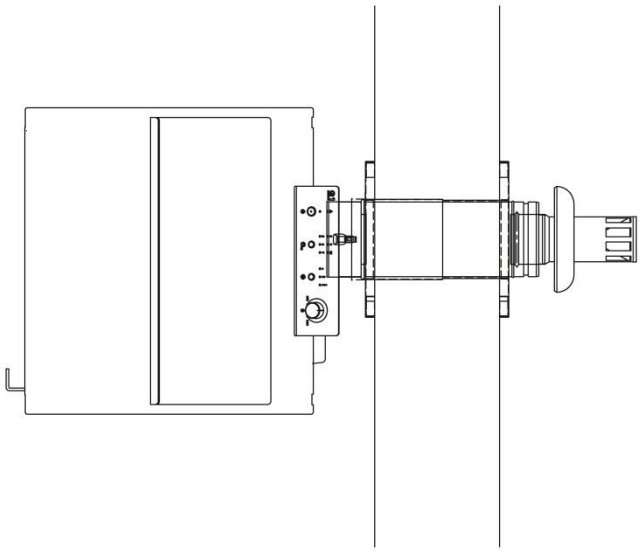
＊工事説明書に基づかない設置をされた場合、火災など思わぬ事故につながる原因となります。当社では一切の責任を負いかねます。

＊建築基準法、火災予防条例など、有効な法令および地域条例などがある場合は、それらを優先して厳守してください。

①ストーブ設置の概要

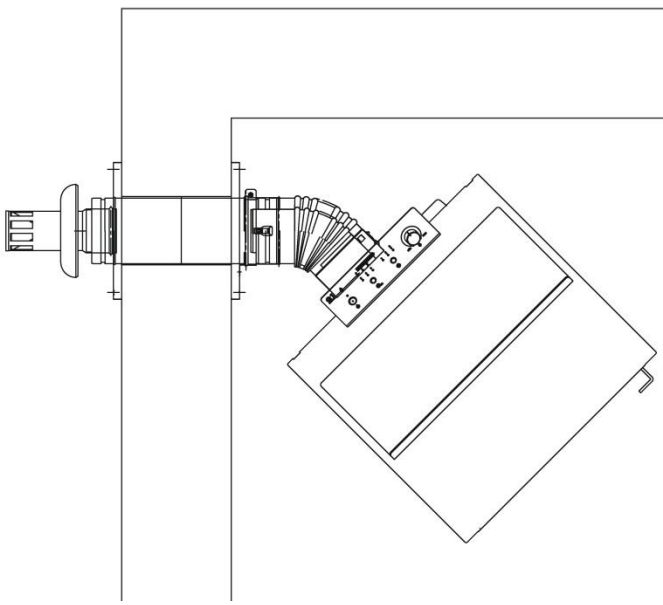
①設置方向を決めます。

平行設置



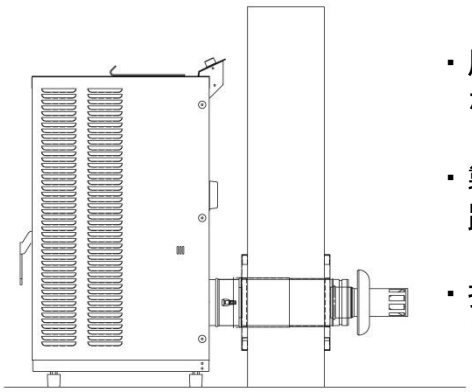
コーナー設置

＊右壁出しか左壁出しかも決めます



②排気筒の立ち上げ方を確認します。

直出し



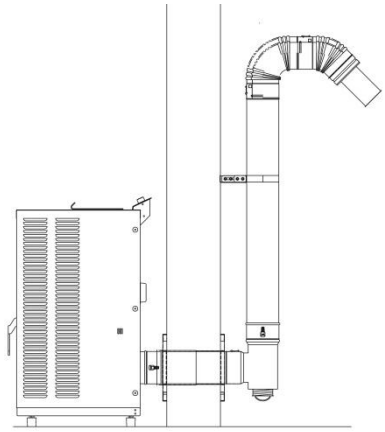
・設置ｺｽﾄが最も安価。

・屋内に排気筒が見えないためスッキリ。

・製品背面と壁との距離は小。

・排気筒ﾄｯﾌﾟが雪で閉塞されない地域に最適。

屋外立ち上げ



・設置ｺｽﾄはやや高価。

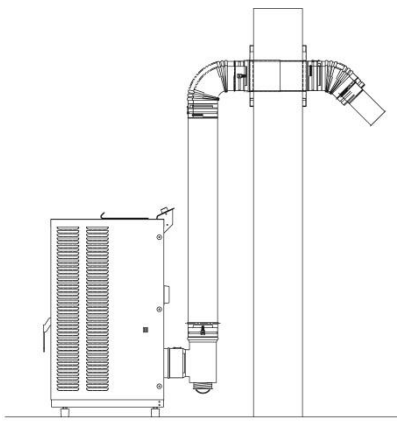
・屋内に排気筒が見えないためスッキリ。

・製品背面と壁との距離は小。

・給排気筒のﾒﾝﾃが易。

・屋外ﾃﾞｯｷ等の床部可燃物を避けられる。

屋内立ち上げ



・設置ｺｽﾄはやや高価。

・排気筒を室内で見せることで趣きのある雰囲気を演出できる。

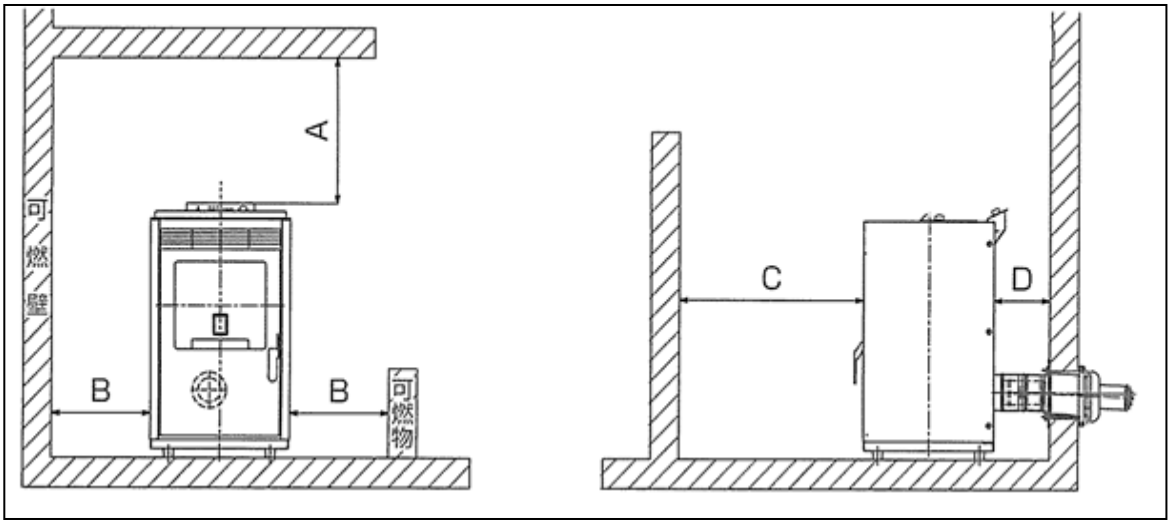
・製品背面と壁との距離は大。

・寒冷地で雪が多く降る地域に最適。

②離隔距離について

総務省令第24号で定められている火災予防上安全な距離は、温風暖房機の場合、以下に示す基準となっています。

対象火気設備等又は対象火気器具等の種別	離隔距離(cm)			
	上方（A）	側方（B）	前方（C）	後方（D）
温風暖房機	100	60	100	60



■平成14年消防庁告示1号に基づく離隔距離の短縮

項目	内容（概要）
平成14年消防庁告示1号	周囲の壁の表面温度が100℃を超えない距離や引火しない距離を確保する等の措置を講じれば離隔距離を短縮できること（室温35℃条件）

当社では上記規定に基づいて離隔距離の短縮を図る目安として、周囲の壁の表面温度が100℃未満となる距離として下記距離を確認しております。ただし、当該距離による設置適用に関しては消防署判断となるため設置場所を管轄する消防署の確認が必要です。

離隔距離(cm)			
上方（A）	側方（B）	前方（C）	後方（D）
100cm以上	10cm以上	100cm以上	10cm以上

■PE-8周辺の木壁の最高温度（参考データー）

	距離	最高温度
上方木壁	60cm	28.1℃
前面木壁	100cm	43.7℃
側面木壁	10cm	61.9℃
後方木壁	10cm	25.4℃
床面木壁		30.7℃

＊上方、前面、側面木壁測定時の室温は24.3℃
＊後方と床面測定時は21.7℃

③内装制限について
（平成21年　国土交通省告示第225号）

＊建築基準法施工令　第129条第6項に基づき、火気使用室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを**準不燃材料**以上としてください。

＊壁及び天井を準不燃材料以下の材料で仕上げた場合は、ペレットストーブの周辺を特定不燃材等で仕上げる必要があります。
内装制限の告示に基づいた対応が必要です。

１次工事

1次工事の前に貫通部前に足場板がある場合、現場担当者に事前に（もしくは当日）外してもらうよう依頼してください。

作業時には必ずヘルメットを着用してください。

事前準備品（指定品）

[防水テープ]
：エースクロス 071白（光洋化学株式会社製）　又は
　全天テープ　No.6931（日東電工株式会社製）

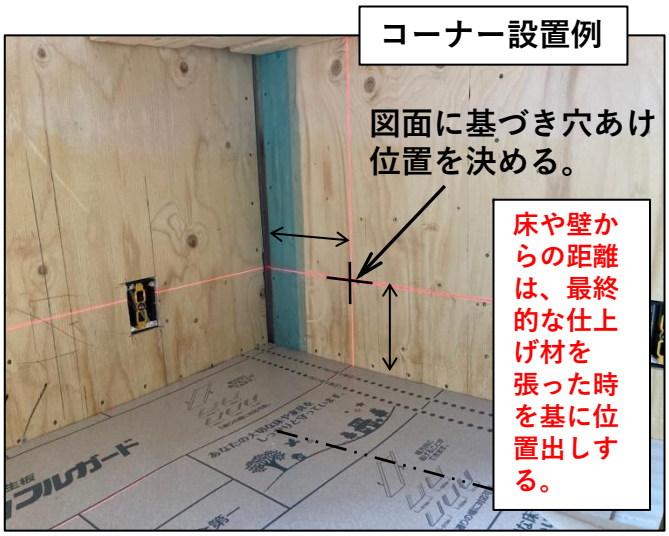
[コーキング剤]
：ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）　（セメダイン株式会社製）

ペレットストーブ気密設置工程例 ※給排気トップセット

①設置場所を事前に現場責任者と打合せする。
穴開け位置を決める。

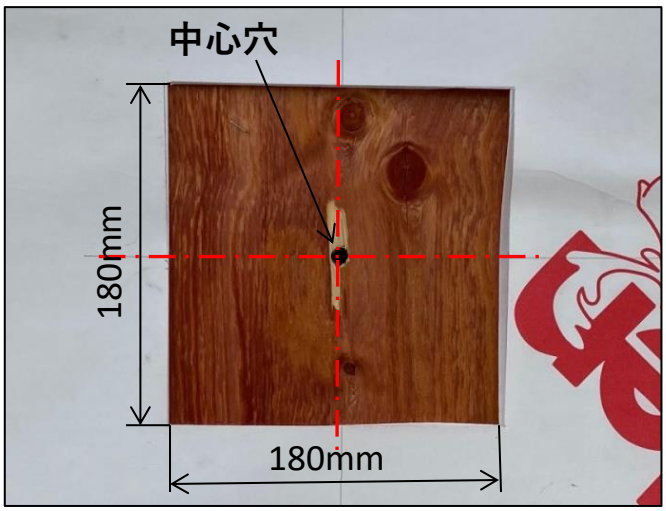


屋外側



屋内側

穴開け位置を決め、中心をドリルで屋外まで穴を開ける。貫通穴を開ける前に、屋外側の透湿防水シート（タイベック）の破れ、ホルソーへの巻き込みを事前防止する為、180mm角でカットしておく。



透湿防水シートに、傾斜パイプ貫通用穴の中心から**水平、垂直を出して記入**する。

ペレットストーブ気密設置工程例 ※給排気トップセット

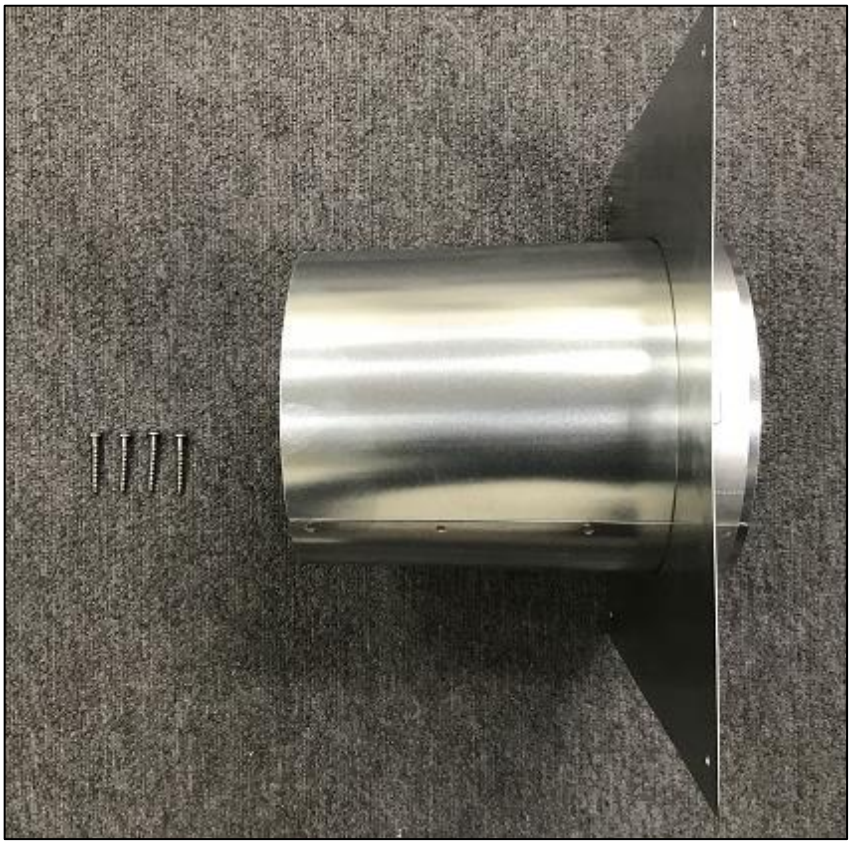


屋内側の防湿フィルムの巻き込みを防ぐ為、**構造用合板（内壁側）のみφ160mmの穴**を開け合板を除去する。

防湿フィルムを**φ160mmの円に沿ってカッターにてカット**する。

屋外側から傾斜パイプ貫通用穴**φ160mm**を開ける。

②必要部材を用意する

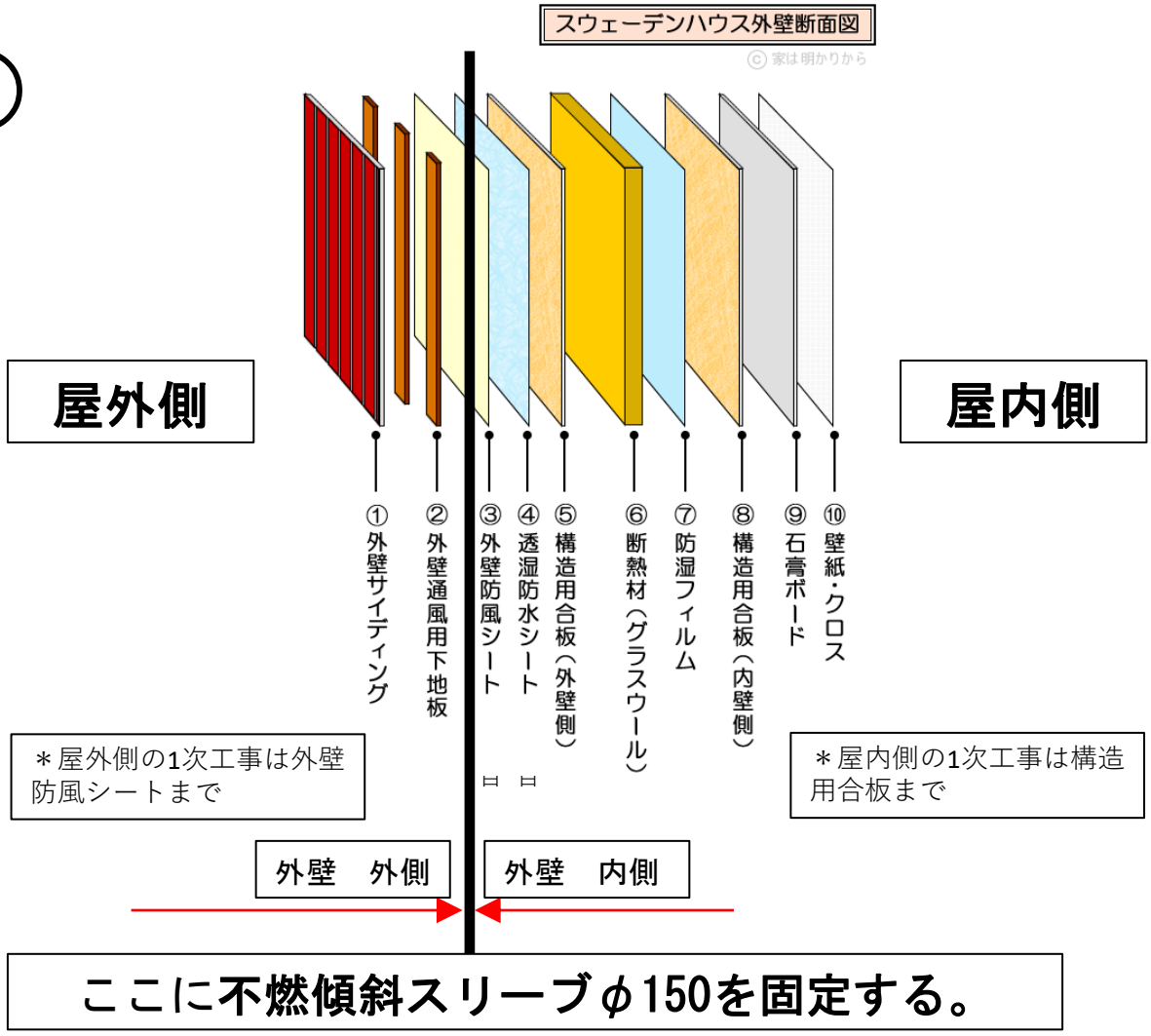


A. 不燃傾斜スリーブφ150
　　スウェーデンハウス特注
　　スリーブ内側にエプトシーラー装着品
　　不燃パイプ　φ150×40-156
　　株式会社カナイ製

B. 不燃傾斜パイプ取付用ｽﾃﾝﾚｽﾈｼﾞ40mm×4本

ペレットストーブ気密設置工程例 ※給排気トップセット

③



ここに不燃傾斜スリーブφ150を固定する。

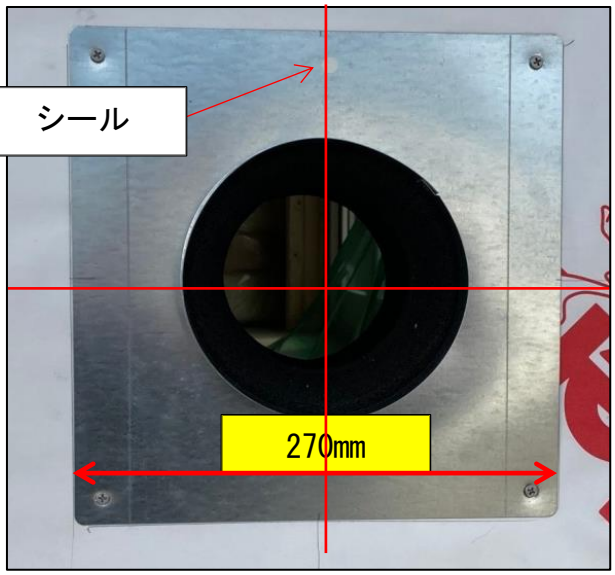
④ 屋外側

透湿防水シートに記入した水平・垂直の線と不燃傾斜パイプの中心を合わせる。

「屋外側」からネジ4本で固定する。

（不燃傾斜スリーブφ150の上下を間違えないようにシールが貼ってある方が上側）

（付属の不燃傾斜パイプ取付用ｽﾃﾝﾚｽﾈｼﾞ40mmを使用する）

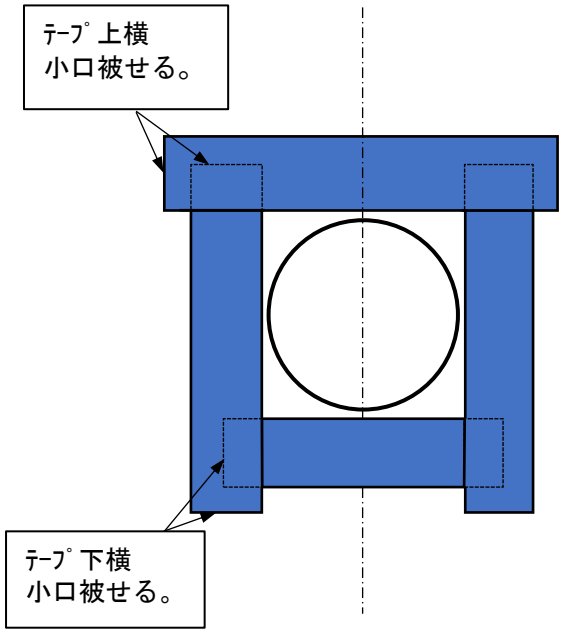


⑤ 屋外側

指定防水テープ
・エースクロス 071白（光洋化学株式会社製） 又は
・全天テープ No.6931（日東電工株式会社製）

不燃傾斜スリーブφ150を防水テープで、下→縦→上の順に固定する。





⑥ 屋内側

スリーブと構造用合板の隙間をコーキングする。

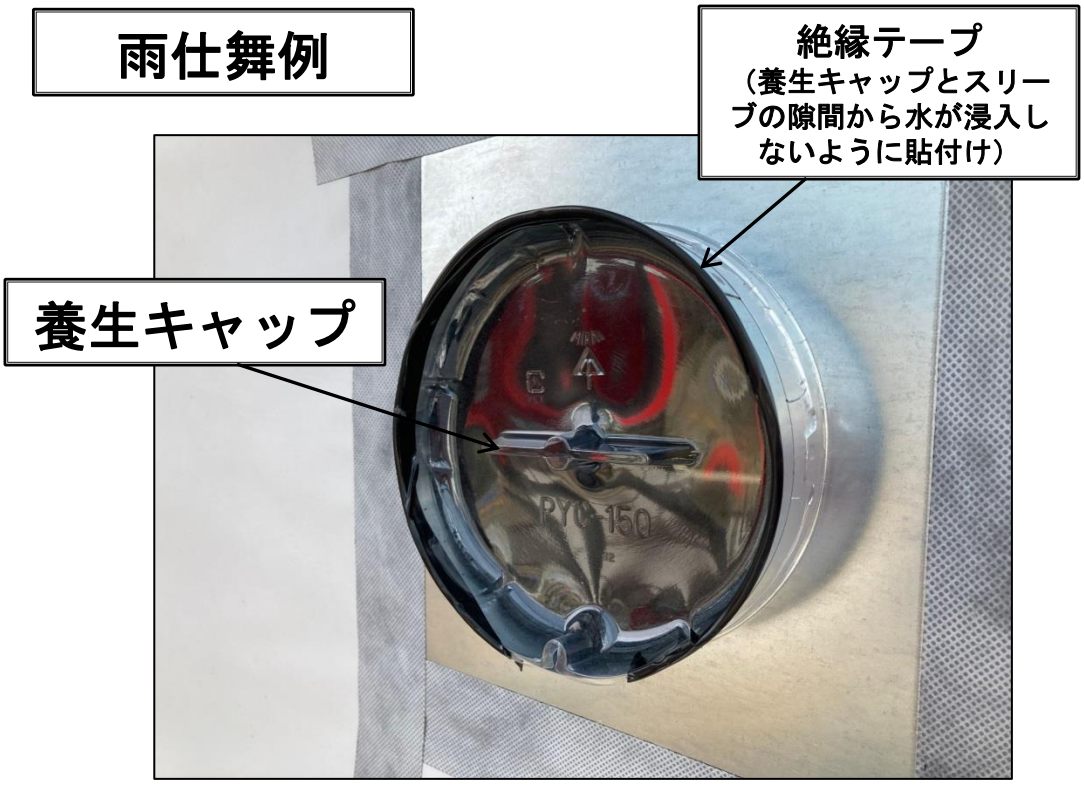
指定コーキング剤：
ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）
（セメダイン株式会社製）



屋外側

2次工事当日まで、壁貫通部から雨水が入らない様、しっかり雨仕舞をする。

雨仕舞例



1次工事完了。**<u>その場で2次工事の打ち合わせをする。</u>**
コンセント、内装（床、壁）、外壁のいずれも終了し、且つクリーニング前の日程にて調整する。

２次工事

事前準備品（指定品）

［コーキング剤］
：ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ） （セメダイン株式会社製）

⑦必要部材を用意する



※直出し配管の例

A. 給排気筒トップ

B. 壁面金具（屋内・屋外側）

C. 2重管ｽﾄﾚｰﾄ

D. 壁面金具取付用ﾈｼﾞ
65㎜×8本（内4本は止水ﾊﾟｯｷﾝ付）

⑧ 屋内側



※内壁と不燃傾斜スリーブの隙間をコーキングする。（最終的には壁面金具で隠れます。）

指定コーキング剤：
ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）
（セメダイン株式会社製）

⑨ 屋外側

別途サイディング工事でコーキング済みか確認する。
サイディングとスリーブの間の隙間がコーキングされていない場合はコーキングする。



指定コーキング剤：
ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）
（セメダイン株式会社製）

⑩ 屋内側

ネジの先端、電気配線に注意

屋内側の壁に壁面金具（バンド有）を取り付ける。

※同梱の壁面金具取付用ネジ
65㎜×4本（止水ﾊﾟｯｷﾝ無）



⑪ 屋内側

屋内側から2重管ストレート(長さ300㎜)を差し込む。

<u>※時折、屋外側からエプトシーラーのつぶれ具合を確認し、2重管ストレートを回しながら、ゆっくりと差し込む。</u>





差し込む際に、ストッパーを真下に向け、配管の凸が当たるまでしっかり差し込む。

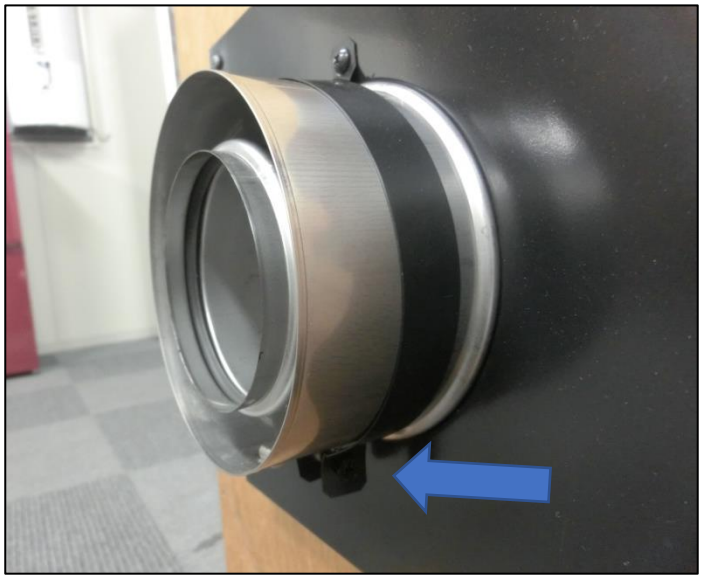
注：ストッパーが真下を向いてないと、固定バンドが締まりにくくなります。

※現在、2重管ストレート(長さ300㎜)は、黒塗装品です。

⑫ 屋内側

ストレート管をバンドでしっかり固定する。

注：バンドに付いているネジをプラスドライバーで締める。



⑬ 屋外側

壁面金具（バンド無）の化粧板を取り外す。

※化粧板の固定ネジ(3箇所)を外して取り外す。



ネジの先端、電気配線に注意

⑭ 屋外側

屋外側（外壁　外側）に壁面金具(バンド無）を取り付ける。

※パイプ中心が壁面金具の中央になるように壁面金具の取付位置を決め、外壁にねじ用の下穴を開けてから、ねじ４本で固定する。その際、外壁に開けた穴にコーキング材を充填してから取り付ける。

ネジが入り難い場合は（不燃傾斜パイプの鉄板を貫通する為）、不燃傾斜パイプに下穴を開けてから、壁面金具を取り付ける。

※同梱の壁面金具取付用ネジ
65㎜×4本（止水ﾊﾟｯｷﾝ有）





屋内側と屋外側の壁面金具は水平の事

⑮ 屋外側

化粧板と壁面金具の間にコーキング材を塗ってから化粧板を再度取り付ける（ネジ３箇所）。

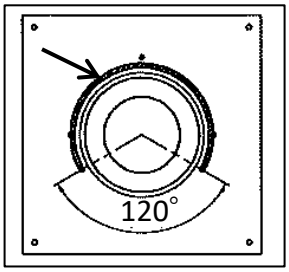
指定コーキング剤：
ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）
（セメダイン株式会社製）

※化粧板を取り付けた際に、二重管ストレートが屋内から屋外に向けて下り勾配（2～3°程度）になっていることを確認する。（雨水侵入防止の為）



必ずコーキングする事

※コーキング範囲は右図参照



⑯ 屋外側

屋外側から雨水が入らないよう、排気筒の周りにコーキング材を塗布する。

サイディングと壁面金具の隙間もコーキング剤を塗布する。
（綺麗に仕上げるため、サイディングにマスキングをしてから塗布する）

角の隙間もｺｰｷﾝｸﾞ材を塗布する



指定コーキング剤：
ｼﾘｺﾝｼｰﾗﾝﾄ8060ﾌﾟﾛ（ｸﾘｱ）
（セメダイン株式会社製）

＊壁面金具周囲は上と左右の3方のみ（下側は無し）

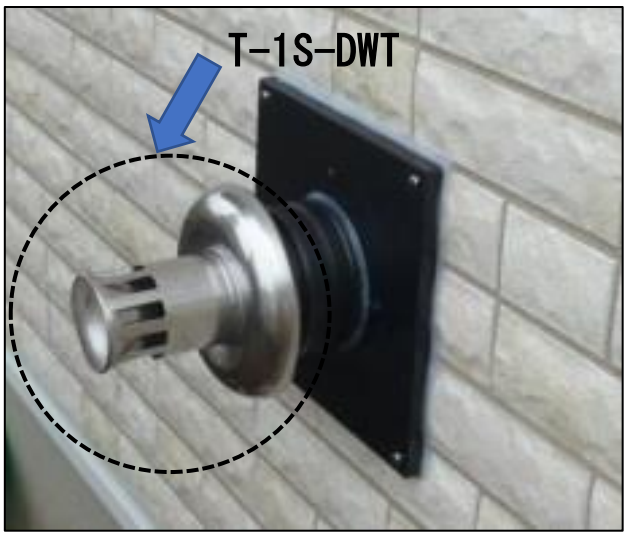
マスキング例



⑰ 屋外側

屋外側ストレート管に給排気筒トップ（T-1S-DWT）を組付ける。

（直出し配管の場合は給排気トップが付きますが、屋内立ち上げの場合は４５°エルボが、屋外立ち上げの場合はＴ字管が取り付く。）



注：しっかりと奥まで差し込む。

⑱ 屋内側

屋外側の配管組付けが完了したら、屋内側の製品と配管を取り付け、配管抜け防止のために市販のねじ１本で固定する。

注：製品と配管が外れないようにしっかり固定する。



ペレットストーブ気密設置工程例　※給排気トップセット

すべての工程が終了したら、試運転を行い正常に運転することを確認してください。
また、引き渡し後、施主様に取扱説明書に沿って正しい取扱い方の説明を行ってください。

注：あくまでも基本の設置例です。住宅によっては、壁などの処理方法が異なる場合がございますので、必ず事前に打合せをして下さい。

